

市庁舎建設基本設計が完成

市では、市役所本庁舎と消防庁舎（敦賀美方消防組合本部と敦賀消防署）の現敷地での建て替えに向けてこれまで検討を重ねてきました。今回、新庁舎の外観デザインや建物配置、フロア構成といった、新庁舎で整備する機能や設備などをまとめた「敦賀市庁舎建設基本設計」（以下、基本設計）が完成しましたので、その概要をお知らせします。

基本設計の策定作業については、市民説明会やパブリックコメント（意見募集）で市民の皆さんから、また、市議会議員の皆さんからも意見をいただきながら進めてきました。基本設計の作成にあたっては、新庁舎の4つの基本理念と「いつも」といつかをつなぐ庁舎（ばしよ）というデザインコンセプトから基本設計のコンセプトを設定しました（下記参照）。

現在、基本設計を基に詳細な設計（実施設計）に取り掛かっており、平成31年10月から庁舎本体の建設工事に着手できるように、整備を進めていきます。

配置計画

特徴

- ①、② 新庁舎と新消防庁舎をひとつの建物として合築し、既存防災センターと連絡通路を設けることで、災害時にも迅速な意思決定のできる防災強化型の複合庁舎
- ③ 工事期間中、既存駐車場が工事エリアとなることから、立体駐車場を先行して整備し、工事期間中は来庁者用、新庁舎整備後は公用車駐車場として使用（下記「今後のスケジュール」参照）
- ④ 市役所周辺のバス乗降所を集約し、市内循環バスのターミナルを整備予定。庁舎の一部を待合スペースとして活用

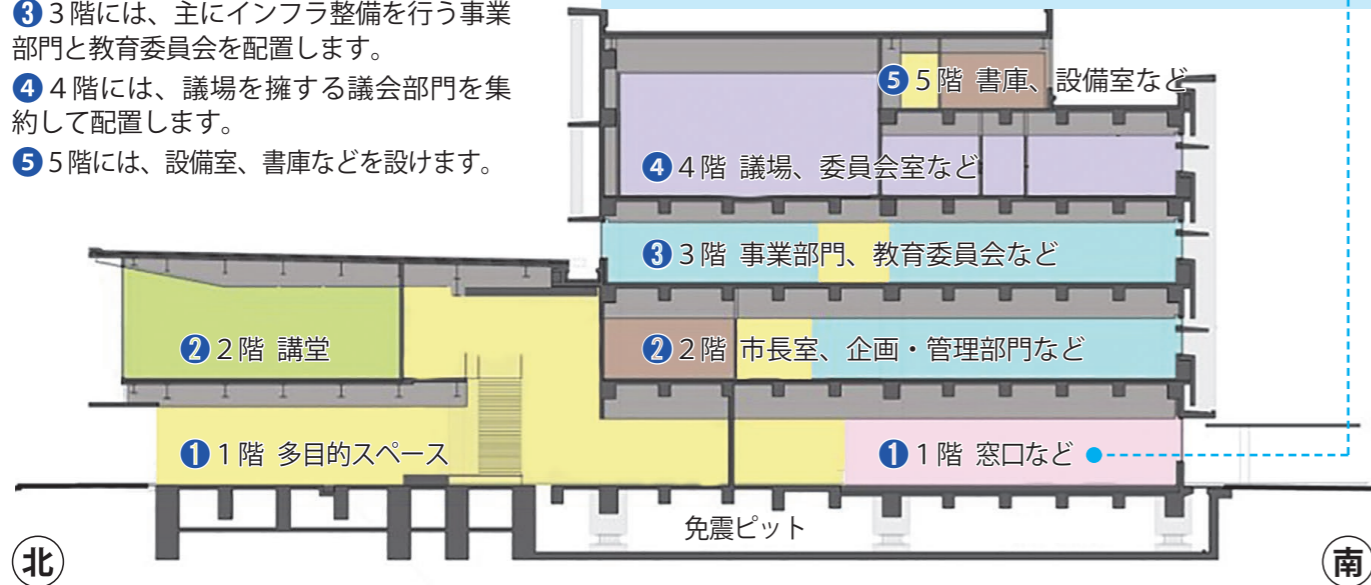


新庁舎のフロア構成

- ① 1階には、多目的スペースと市民窓口部門を集約して配置します。
- ② 2階には、市長室や企画部門、管理部門、講堂を配置します。また、迅速な災害対応などを行うため、消防エリアに防災センターとの連絡通路を設けます。
- ③ 3階には、主にインフラ整備を行う事業部門と教育委員会を配置します。
- ④ 4階には、議場を擁する議会部門を集約して配置します。
- ⑤ 5階には、設備室、書庫などを設けます。

ワンフロア集約連携サービス

市民窓口部門では、証明書発行や手続きがわかりやすく、迅速にサービス提供できるように整備します。具体的には、①証明書発行専用の窓口を設置、②市民課窓口を起点に福祉関係の部署を近接して配置します。



今後のスケジュール

年	H30	H31	H32	H33	H34
設計	実施設計				
工事		立体駐車場完成	建設工事など	新庁舎完成	ランドオープン

新庁舎の実施設計は、平成31年6月完成を予定しています。その後、入札によって建設工事の事業者を決定し、平成31年10月から新庁舎建設工事に着手する予定です。平成32年度末（平成33年3月）の完成を目指しており、平成33年度から新庁舎で業務を開始します。また、平成33年度には新庁舎で業務を行いながら、現庁舎の解体と外構工事を行い、平成34年度にランドオープンする予定です。

問合せ先 契約管理課 ☎22-8105

コンセプト

デザインコンセプト

いつもといつかを「つなぐ庁舎」

基本理念

- 市民の安心安全を確保した災害に強い庁舎
- 市民が利用しやすい親しみの持てる開かれた庁舎
- 人にやさしい環境にやさしいストレスフリーな庁舎
- 行政サービス提供のための機能性に優れ柔軟で効率的な庁舎

基本設計のコンセプト

- 「日常」と「災害時」をつなぐ庁舎
防災拠点として震度7程度の複数回地震に耐えられる性能で、業務継続性の高い庁舎とします。
- 「毎日」と「特別な日」をつなぐ庁舎
誰でも利用できる多目的スペースを設け、開かれた庁舎を目指します。ワンフロア型の窓口を導入し、利用しやすい庁舎とします。
- 「人」と「自然」をつなぐ庁舎
さまざまな来庁者が快適に利用できる庁舎とします。省エネ・省資源に取り組み、環境への負荷の少ない庁舎を目指します。
- 「いま」と「未来」をつなぐ庁舎
社会情勢や市民ニーズの変化による組織改編や行政サービスの見直しに柔軟に対応できるフレキシブルな庁舎とします。



①、②の地点から庁舎を見たイメージは右図を参照

新庁舎の概要

所在地 中央町2丁目1番1号（現庁舎敷地）
【市庁舎】
 延床面積 10,150㎡
 構造種別 南側高層棟：鉄筋コンクリート造5階建て、一部プレストレストコンクリート構造（基礎免震構造）北側低層棟：鉄骨造3階建て〔付加制震構造（連結型）〕
【消防庁舎】
 延床面積 2,680㎡
 構造種別 鉄骨造3階建て〔付加制震構造（連結型）〕



▲白い外壁内に「気比の松原」をイメージしたルーバー（細長い板を均等に取り付けしたもの）が特徴的な北面



▲「気比の松原」をイメージした繊細な立体格子が特徴的な南面